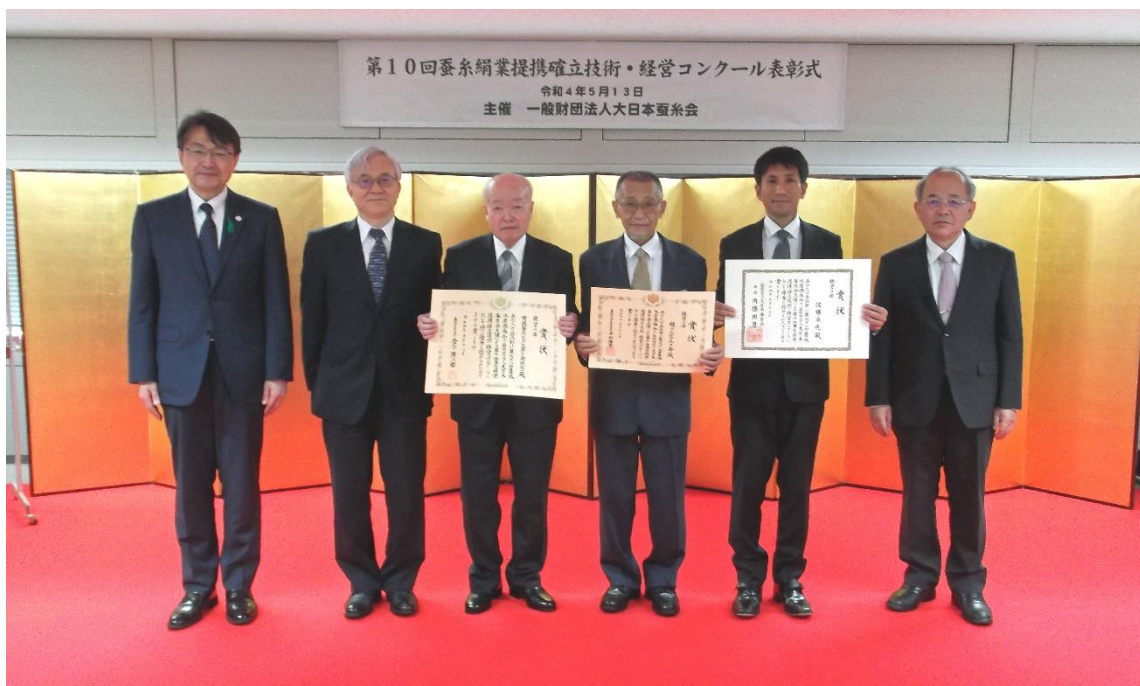


第10回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール表彰

一般財団法人大日本蚕糸会主催の「第10回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール表彰式」は、令和4年5月13日（金）東京都千代田区有楽町の蚕糸会館において挙行されました。

なお、本コンクールへの出品数は、提携グループ2団体、養蚕農家が28点、農家団体が1点の合計31点あり、この中から農林水産大臣賞1点、農林水産省農産局長賞1点及び大日本蚕糸会会頭賞2点が選出されました。また、今回は第10回目の節目となるコンクールを記念し、大日本蚕糸会特別賞2点が選定されました。



左から平形農産局長、内藤会頭、宮坂製糸シルク工房の会（宮坂氏）、綾の小石丸の会（秋山氏）、養蚕農家（佐藤氏）、町井審査委員長

農林水産大臣賞

宮坂製糸シルク工房の会（統括）（長野県岡谷市）

農林水産省農産局長賞

綾の小石丸の会（宮崎県東諸県郡綾町）

大日本蚕糸会会頭賞

佐藤 卓也（福島県伊達郡川俣町）
松井 喬・節子 夫妻（群馬県前橋市）

大日本蚕糸会特別賞

阿曾 一良・ゆき子 夫妻（山形県飽海郡遊佐町）
酒井 英樹・しずえ 夫妻（群馬県高崎市）

（敬称は略させていただきました）

農林水産大臣賞 1点

提携グループ : 宮坂製糸シルク工房の会 (統括)

(功績概要)

宮坂製糸シルク工房の会 (統括) は、長野県下を中心に生産された繭を扱う宮坂製糸シルク工房の会、千葉県下の繭を扱う千葉県ブランド繭推進協議会及び東京多摩地区で生産された繭を扱う東京シルクの会の3グループから構成され、構成養蚕農家数14戸で繭2,720kgを生産している。

この3グループを取りまとめる株式会社宮坂製糸所は、通常の自動繰糸生糸から太繊度・細繊度生糸、玉糸、トルネード糸等の特殊生糸、上州式、諏訪式による座繰り生糸、古代繭等の特殊蚕品種 (松岡姫、白繭細、青熟、小石丸、ぐんま細) の生糸など多様な生糸を繰糸する技術を有しており、年間約600kgの生糸を生産し、小ロット生糸の生産にも対応するなど実需者の用途に応じた生糸生産を行い、経営の安定化に努めている。

また、宮坂製糸所は、平成26年8月に岡谷市立蚕糸博物館内に移転、併設され“動く展示施設”として見学者対応も積極的に果たし、シルクに対する啓蒙活動の役割を担っている。生糸生産以外にもシルク入り石鹼等シルクを活用した様々な製品を開発、作製し、博物館の売店等での販売を通して、収入の増加及び経営の安定化に寄与している。このように、多様なニーズの開拓に努めている。

農林水産省農産局長賞 1点

提携グループ : 綾の小石丸の会

(功績概要)

綾の小石丸の会は、現代の名工・秋山眞和氏を中心に、養蚕から染織までの一貫した工程を手仕事で担う綾の手紬染織工房 (株式会社綾の手) での活動と連携した取り組みを行っている。同会には、養蚕農家2戸が入っており、小石丸の繭185kgが生産されている。

綾の小石丸の会では、蚕品種小石丸の生糸が染色性に優れていることを早くから見出し、特に藍染め、草木染め、貝紫染めを行った高品質の着物やショール等の製品を製造・販売している。これらの製品は、銀座和光、日本橋三越本店、東京や京都のギャラリーでの個展や、全国各地の百貨店で展示販売され、高い評価を受けるとともに多くのリピーターを獲得している。また、綾町のふるさと納税の返礼品として小石丸の繭玉が利用されるなど新たな取り組みも行われている。さらに、来場者へは桑畑や飼育施設を案内し、養蚕への理解を深めてもらうとともに、写真や動画、工房のSNSアカウントを通じて、養蚕からの織物づくりまでの工程を多くの世代に知ってもらう努力を重ねている。

綾の小石丸の会は、蚕糸・絹業提携グループの中で唯一、支援事業による補助金助成を受けない自立型のグループでもあり、その技術力と事業化、販売力が高い。

大日本蚕糸会会頭賞 2点

養蚕農家 : 佐藤 卓也

(功績概要)

佐藤氏は、養蚕(29%)、シャモ飼養(38%)、小菊(31%)等の生産を組み合わせたバランスの取れた複合経営農家で、養蚕については、令和3年度は年4回の飼育を行い、繭生産は1,034kgで高品質の真綿用の繭生産を行っている。

佐藤氏は、令和元年に逝去された父の意志を継ぎ、採桑時間の短縮と作業効率化のため、桑園を専用桑園化し条桑刈取機により、桑収穫時間の短縮と効率化をはかり、採桑作業の省力化に取り組み、良質の桑葉を確保するとともに、提携グループの仲間とともに増産に取り組み、継承後、毎年1トンを超える繭を生産し、真綿繭出荷者全戸と真綿協会関係者立会での、全袋を共同選繭して出荷している。

また、佐藤氏は地域の中心的な役割を担い、地域活性化に大きく貢献しており、若手養蚕農家として今後の更なる活躍が期待される。

養蚕農家 : 松井 喬・節子 夫妻

(功績概要)

松井夫妻は、繭生産636kg、蚕期4回で、繭収入の割合が粗収入の95%を占める養蚕主業農家であるが、地元協議会役員として地域の中心となり、稚蚕共同飼育所副主任として稚蚕期から飼育に携わり、蚕品種の特性等の把握に努めるなど、優良繭生産に非常に積極的に取り組んでいる。

また、松井夫妻は遺伝子組換えカイコの飼育にも取り組み、これまでに緑色蛍光遺伝子組換えカイコや超極細織度の遺伝子組換えカイコを飼育してきた。また、冬期間には、稚蚕共同飼育所を利用した企業向けの遺伝子組換えカイコの飼育にも取り組んでいる。これらは同夫妻の蚕飼育の技術力の高さを実証している。

大日本蚕糸会特別賞 2点

養蚕農家 : 阿曾 一良・ゆき子 夫妻

養蚕農家 : 酒井 英樹・しずえ 夫妻

(功績概要)

阿曾夫妻並びに酒井夫妻については、第1回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールから連続10年間、出品財の推薦がありました。両ご夫妻のこの間の地域における養蚕業への真摯な取り組みと本コンクールへの貢献は称えられる。